

群れるな ひとりになれ
みんなになるな ひとりになれ

一人になる

医師 小笠原登とハンセン病強制隔離政策

語り／竹下 景子

監督／高橋 一郎

撮影／原 ひろし

プロデューサー／鵜久森 典妙

企画・製作

「二人になる」制作実行委員会

製作協力

「もういいかい」映画製作委員会

この映画は、ハンセン病回復者、和泉眞藏、徳田靖之、藤野豊等の証言をもとに制作しました。

協力／真宗大谷派（東本願寺） 圓周寺 劇団名古屋 劇団神戸

ドキュメンタリー映画／
2021年／カラー／デジタル／99分

医師 小笠原登とハンセン病強制隔離政策

ドキュメンタリー映画

群れるな ひとりになれ
みんなになるな ひとりになれ

この国では、ハンセン病をわずらった人たちが、人間としての尊厳を奪われ、家族たちも差別と偏見にさらされる、いのちを削らなければならない、という状況が続いてきました。

国は1907年に「癩予防ニ関スル件」を制定。ハンセン病患者を「強制隔離」するという政策をはじめました。そして政治家や法律家、宗教家やなんと医師までも、その過ちを見抜けず、無批判に「追従」してきたのです。それが1996年の「らい予防法」廃止まで、約90年も続いてきたのです。

この間、「人間回復」への闘いがこつこつと積み重ねられてきました。「ハンセン病は不治の病ではないし、遺伝でも、強烈な伝染病でもない、隔離は必要ない」と言い続けてきた一人の医師がいました。小笠原登は、一人の医師として、一人ひとりの患者に接し、患者を「隔離」から守ろうとしたのです。それは国という「厚く高い壁」の前には、小さな「抵抗」でしかなかったかもしれませんが、隔離の中で生きる人々に仄かな灯りをともしつづけたのです。

真宗の僧侶でもあった小笠原登を生み出した「土壌」と、彼をのみ込んでいった国策、それに歩調をあわせた真宗教団。そのような時代社会にあって、「ひとりになる」ことに徹することができた背景や、人との出会いを描いたのがこの作品です。

しゅ もく

撞木と鐘

ハンセン病発病は鐘の音が鳴るのと同じです。鐘の音は撞木と鐘とがうまく一致しなければ鳴りません。撞木と鐘。どちらかに欠陥があれば、叩いても音は出ない。撞木はらい菌で、鐘は体質です。日本の学会は撞木であるらい菌にばかりとらわれて研究しているが、音が出る鐘がどういうものか、つまりハンセン病発病をする体質がどういうものかを究めることの方が大事です。 小笠原 登



ハンセン病とは

ハンセン病は、らい菌による慢性細菌感染症です。らい菌は極めて病原性が弱く、たとえ菌が感染しても免疫力(特異的防御免疫)が弱い体質の人しか発病しません。この免疫力が弱い体質の人は、生活が豊かになるにつれて減少するため、社会の進歩に伴って発症者が減り最終的にはゼロになって病気は自然消滅します。現在の日本で新たな患者が事実上なくなったのは、ハンセン病のこの特徴によるものです。



企画・製作:「一人になる」制作実行委員会

お問合せ: TEL・FAX: 059-396-0131

E-mail: be86@mub.biglobe.ne.jp

製作協力:「もういいかい」映画製作委員会

語り/竹下 景子

監督/高橋 一郎 撮影/原 ひろし プロデューサー/鶴久森 典妙

協力/真宗大谷派(東本願寺) 圓周寺 劇団名古屋 劇団神戸

ドキュメンタリー映画/2021年/カラー/デジタル/99分

▶大阪

6月5日(土)~上映

シアターセブン

TEL 06-4862-7733

大阪市淀川区十三本町 1-7-27 サンポードシティ5F
阪急十三駅西口徒歩5分 <https://www.theater-seven.com/>

▶神戸

6月12日(土)~25日(金)

元町映画館

TEL 078-366-2636

神戸市中央区元町通 4-1-12
<https://www.motoei.com/>

▶京都

6月4日(金)~10日(木)

京都シネマ

TEL 075-353-4723

京都市下京区烏丸通り四条下ル水銀屋町620
<https://www.kyotocinema.jp/>

* 上映時間、料金については劇場にお問合せください *